

令和5年度(第35回)ポンペ賞受賞者



長崎大学医学部の創設者であるポンペ・ファン・メールデルフォールトを記念して新卒業生を対象にポンペ賞が設けられています。

ポンペ賞では卒業成績が上位3位までの方に贈られます。

受賞者には表彰状とともにブロンズのポンペのレリーフをはめ込んだ盾が贈られます。

今年度受賞されたのは成績優秀者として本村 太郎さん、立石 真結美さん、坂元 太朗さんの3名です。

3名の先輩方、おめでとうございます。

受賞者の方々、そして今年卒業して研修医としての道を進まれている卒業生の皆様が良医としてこれからたくさん経験と実績を積み上げることを願っています。

成績優秀者（学業成績 上位3位）



本村 太郎さん



立石 真結美さん



坂元 太朗さん



編集長
大石佳奈（学友会 広報部）

編集部
長崎大学医学部ぐびろが丘編集部
長崎医学同窓会
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12番4号
☎095-848-5484
E-mail : ryojun_do@ml.nagasaki-u.ac.jp

印刷
株式会社インテックス



医学部長と担当教授



海東龍宮寺@釜山

私は三年次のリサーチセミナーで韓国の翰林大学（以下ハンリム大学）に行きました。韓国を留学する理由は、私が特に興味関心をもつてゐる神経系の分野に関してハンリム大学が強かったです。ただ

実際は円安で渡航費や生費が高騰していく欧米に行くのは難しいと感じたのが決め手になりました。

韓国ではパーキンソン病やアルツハイマー型認知症など認知や行動に異常を伴う疾患について研

究している研究室にお話をになりました。そこで私はパーキンソン病に特異的な病理像として有名な

病やアルツハイマー型認知症などを知りました。そしてそれに

離れたところにある田舎町で、冬のソナタの舞台になつた町だそう

です。真冬で毎日氷点下

だったこと、名産のタッカルビやマッククスがとても美味しかったことが

特に印象に残っています。真冬の中、一人で雪

リサーチで初韓国！
とにかくご飯がうまい！

佐瀬 光雄さん

海外リサーチ 体験記

ンパク質を調べることが
主な研究内容でした。教
授1人に学生2人という
小さな研究室でしたが、
様々な機器、手法を用い
て研究に取り組んでいま
した。私もそれらを見さ
せてもらひながら神経系
疾患の基礎研究に必要な
スキルを学ばせてもらひ
ました。特にマウスの脳
に非常に細い針を刺し
病原タンパク質を注射す
る実験はとても貴重な経
験でになりました。

私たちの研究室はハン
リム大学の春川（チュン
チヨン）キャンパスにあ
りました。春川はソウル
から東北部に100kmほ
ど離れたところにある田
舎町で、冬のソナタの舞
台になつた町だそうで
す。真冬で毎日氷点下

になりました。そこで
はパーキンソン病に特異
的な病理像として有名な
病やアルツハイマー型認
知症などを認知や行動に異
常を伴う疾患について研
究する機序や影響するタ

事も無償で提供していた
だいたので経済面で悩む
ことなくリサーチに集中
することができました。韓
国国内を旅行し、各地の
グルメを堪能することができます。私は生活する寮や食
事も無償で提供していた
だいたので経済面で悩む
ことなくリサーチに集中
することができました。

週末は時間もあるので韓
国に登つたりカップルで
乗るトロッコに乗つたの
はいい思い出です。もし海外リサーチでど
の国に行くか悩んでいる
方は韓国を強くおすすめ
します。先述の通り欧米
に比べると圧倒的に安く
渡航することができます。
私は生活する寮や食



クワレでのレストラン

2024年1月から2
月にかけて、私はリサー
チセミナーの一環として
ケニアを訪れました。そ
の際、お世話になつたの
は「ケニアメディカルリ

サーチインスティティュート」(KEMRI) という、ケニア国立の医学研究所です。首都ナイロビのKEMRIでは、マラリアなどの熱帯医学が研究さ

KEMRI の研究所と長崎
訪れました。そこには
も「クワレ」という街を
見て学させ
ていただきました。

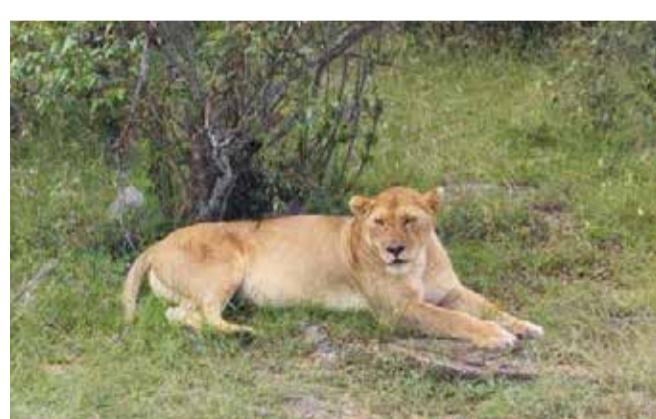
ケニア行ってみた!!

中野
響
さん



マサイ・マラのアフリカゾウ

A photograph of a group of elephants in a natural habitat. In the foreground, a large elephant is walking towards the right. Behind it, several other elephants are visible, some partially obscured by the grass. The background shows a vast, open landscape with a cloudy sky. The image is slightly grainy, suggesting it might be a print from a newspaper or magazine.



ライオネス

「しばらく日本でも全然生じた。特に、焼肉「チョマ」アップ、ピクトで食べたナイ園」を読みました。そこではサファリができ、ライオンやチーター、象、キリン、シマウマなどの動物を見ることができました。



ナイロビのKEMR

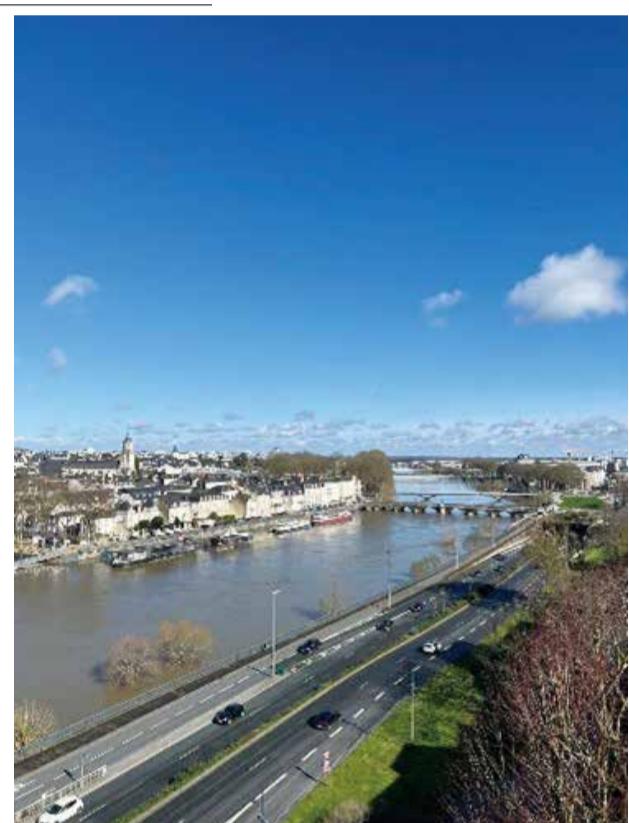
私は 2002年1月から3月初めまでの約2ヶ月の間フランスのアングジエ大学でリサーキセミナーを行いました。アングジエはフランス西部にあり、フランスで一番長い川であるロワール川の

支流 メーラ川河畔に位置する町です。中世の面影を残した街の雰囲気は穏やかで過ごしやすくとても居心地のいい町でした。お世話になつた研究室はメタボリックシンドromeや糖尿病と細胞外

小胞の関係性を研究しているところでした。そこには、フランス人の研究者だけでなくレバノンから留学生や比較的年の若い大学院生などもおり、研究室内では英語やフランス語で活発な意見

アンジエ大学での2か月を振り返つて

4年 大賀 千瑚さん



アンジェ城から見た街の風景

か飛び交っていました。そのような研究室で、私は細胞外小胞（EVs）を抽出し、その特性を計測し吟味するということを行いました。実験に関しては、実験手技をあらかじめ日本で習つていったり、様々な論文を読んだり、準備したつもりではあり

ましたか。初めのうちは、フランス語で書かれたプロトコルを渡され面喰つたり、研究内容の英語がうまく理解できなかつたりと難しいところは多々ありました。しかし、あらゆることを経験したいと思つておりましたので、その思いを伝え続けるこ

とによって様々なことを経験させてもらうことができました。また、私の研究室では各々家でランチを作つてきて一つの部屋にみんなで集まり、おしゃべりをしながら昼食をとつていました。（私はこのようなちょっとしたところに外国っぽさを

全くで楽しみました。また、アンジェ大学は留学生が多く、バディーシステムでフランス人の学生と一緒にでくれたり、パーティでバーに行ったりと学校主催のイベントやシステムが充実していました。私はそのようなシステムを積極的に使ったので、自分から日本語を学ぶことができたのです。人であることをすごく意識し、日本とはどのような国なのかをしつかりと考えるいい機会になりました。このように、私のフランスでの2ヶ月はとても刺激的で素敵なものでした。留学中の思い出は一生の宝物です。



大好きな友達とお寿司パーティー

感じていました。) 研室の人の皆さんには、世中にはこんなに親切でいい人がいるんだ! びっくりするほど素敵方々だったので実験でれた時も、量食の時間

究 究 優 の と な 疲 を

い、様々などころに出かけていきました。また、すごく仲良しのフランス人の友達もでき、アンジエの観光や美術館に連れて行つてもらつたり、私が日本から持つて行つた

最後になりますが、このような貴重な機会をくださった関係者の方々、応援してくれた両親、祖父母、友人、先生方をはじめ、私の留学に携わった方々にこの場をお借りして改めて感謝を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。



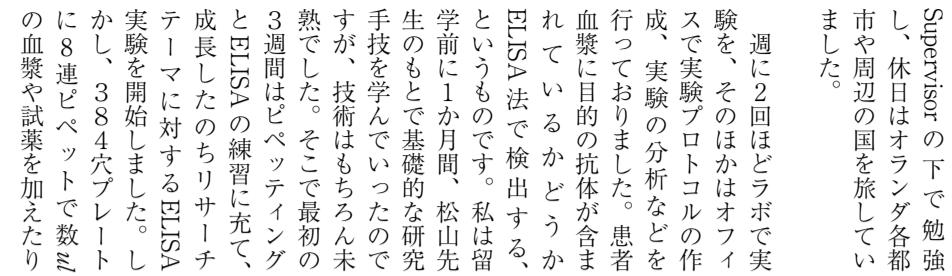
SupervisorのSam(白衣)とインターン生のJens



アップルタルト



研究室のみなさんと



私はリサーチセミナーにて3か月間オランダのライデン大学に留学させていただきました。ライデン大学病院であるLUMCの中のRheumatology部門で全身性強皮症の抗体について研究しておりました。平日は9時から17時までSupervisorの下で勉強し、休日はオランダ各都市や周辺の国を旅していました。



フローニンゲンの景色

ライデン大学での留学生活

尾崎 瑠音さん

日本人代表になる用意を

佛坂真季子 さん

研究室のみなさんと



塚平 梨奈さん

モンタナ大学のタナ州ミズーラのどかな街で、これまでおり、キヤにも野生動物がたくさんのいます。私自身海外経験はほとんどなく、渡米も初めてだつたので、戸惑うことや大変だと思つたこともあります。また、新しさたが、新しい経験をたくさんしました。大学ではJay Evans教授のCenter for Translational Medicine (CTM) という研究室配属され、シードモスやフェンタニルに対するワクチンのアジュバントに関する研究を行いました。CTMの研究室は設備がとても充実しており、素晴らしい環境勉強させて頂いたと感じています。また、毎週ミーティングを通して、研究室のメンバーのみなさんがどのような研究をしているかも知ることができます。また、プレゼンタシの方はプレゼンテーション

ンをするのに非常に慣れており、上手なプレゼンテーションを見る機会恵まれたことも大変あがたく思っています。

で会おうね」と言つて
れたことがとても嬉
かつたです。2か月と
う短い間でしたが、た
さんの方達に恵まれ、
えていただきました。

く
し
い
く
で、この経験を今後に役立て、また留学に挑戦してみたいと思っていました。最後になりましたが、永田先生、Jay Evans先生をはじめとするモンタ



Carnevale di Venezia

私は今年の1月から3月にかけ、イタリア北部にあるUniversity of Trento のAffiliative Behavior and Physiology Labにて研究室に参加させていただきました。そこでは、友人・恋人同士の親密度や相互作用が脳内同調性に与える影響についての研究を行つており、ピペットを扱うような実験とは異なる、被験者を観察する実験を初めて経験しました。大学の規定上、ただ見学するしかないもどかしさもありましたが、途中からは、この実験の意義や自分なりの仮説を事前に考えて行き、それにについて先生や大学院生と議論する、有意義な時間

マとナガサキはあの壊滅的な状態からすぐには復活したの？今はどんな町？」と聞かれました。私は長崎大学にいながら、英語はおろか日本語でさえもすぐに答えられませんでした。小学生の頃から平和学習で何度も学んでいたのに、自分はいかに「被害の大きさ」「戦争の脅威」「平和の尊さ」にばかり注目して、「なぜ日本が今の状態まで復活できたのか」という誇るべき日本の成長力は気にしていなかつたことか。彼女に初めて会う日本人として、日本人代表として誤りなく伝えたい私は、回答を保留して勉強し直し、助け舟を貰いながら後日なんとか答えることができました。：が、長崎大学の医学生として、原爆の後遺症を含む「被害のその後」について真に理解していないかつたことを本当に恥ずかしく思いました。ま



素敵な出合いに感謝

医学部生トピック（学生紹介）

担当..佐藤航大

今回的学生トピックでは、今年の春休みに1週間のフィリピンでのメディカルミッションに参加し、実際に熱帯地域の医療を体験した医学科3年生の佐藤航大さんについて紹介します。医学生としてフィリピンでの医療活動に参加し、現地の人々と交流を行つた彼は、この経験から何を考えたのでしょうか？

なぜ海外に？なぜフィリピンに？

私が春休みに海外に行くことに決めたのは、学生の時間が如何に貴重か、前大学卒業後に実感したからだ（小学生は学士編入生）。これまで中学校卒業のほぼ全てをスマートと勉強に費やしてきた佐藤青年は大学卒業後社会に出て感じた。なんて忙しいのだと。そこで、2回目の大学生活では、何もできないようではも、できる大学生といふは、何でもできないようではいけないと感じたの。

春休みにどこか海外の国に行つてみたいと思つていた私がフィリピンを選んだのは、フィリピンが熱帯地域でかつ英語圏だからだ。長崎大学に入つて熱帯医学に興味を持ち始めていた私は、熱帯地域に実際に行つみたい、という気持ちと英語を早く習得したいといふ気持ちを強く持つようになつていつた。その当時は、フィリピンでスペルタ語学学校に通い、学校のない日に感染症病院で勉強したいな、なんて思つていて。

語学学校も日星がついていたころ、東京に住む



サンラザロ病院の皆様とSmokey mountain山登り

語学学校に通うか調べ始めたところ、旅は予定と大きく異なるものとなつた。語学学校も日星がついていたころ、東京に住む

日に「そうだ、ラグビー」

（熱帯医学に興味がある）

（私はこれまで12年ほどラグビーを続いている）

（行くんだが何か面白いものはないか。）

（みんなノリでLINEをしてみた。すると「フィリピンの医師で貧困地域に人がいるから連れて行つてくれるかもしない」）

（Medical missionをよくしに行つている医師の友人）

（missionが何なのかもよく分かっていなかつたが）

（何となく面白そうだったので「yes」と即答した）

（これにより語学学校の道がなくなったことで）

（いい意味で）、フィリピンのサンラザロ病院に

（行つてみたいと思い、熱

（いい意味で）、フィリピンの住民にとって医療ア

（セスが如何に難しいかを）

（学ぶとともに、実際に執

（刀までさせて頂き、ただ

（セスが如何に難しいかを）

（一日中割礼手術をし、私

（は割礼手術のエキスパ

（トとなつてしまつた。）

（今回のMedical missionでは単に、手術という医

（生の身分では通常できない経験をさせて頂いた）

（たゞ、直接困っている人を助けている）

（学生の身分では通常できない経験をさせて頂いた）

（たゞ、直接困っている人を助けている）

